

資料2

情報統合管理基盤導入事業の報告

第5回あきたスマートシティ・プロジェクト推進協議会
場所:秋田市環境部庁舎大会議室
平成24年2月22日(水)

1 情報統合管理基盤構築作業について

(1) 進捗状況について

ア 市有5施設(美術工芸短大、秋田テルサ、太平山自然学習センター、サンライフ秋田、老人福祉センター)へのセンサー設置工事が完了

イ 現在、4月からの運用開始に向け、システムの動作検証などを行っている。

(2) 市有445施設のエネルギーデータの提供について

ア 東北電力様、東部ガス様、秋田市上下水道局の協力により、電気、ガス、水道の使用量・料金のデータについて、毎月、445施設分を一括で提供していただけることになった。

イ 基盤構築作業の中で、各社の提供データをシステムに一括で取り込む仕組みを整備

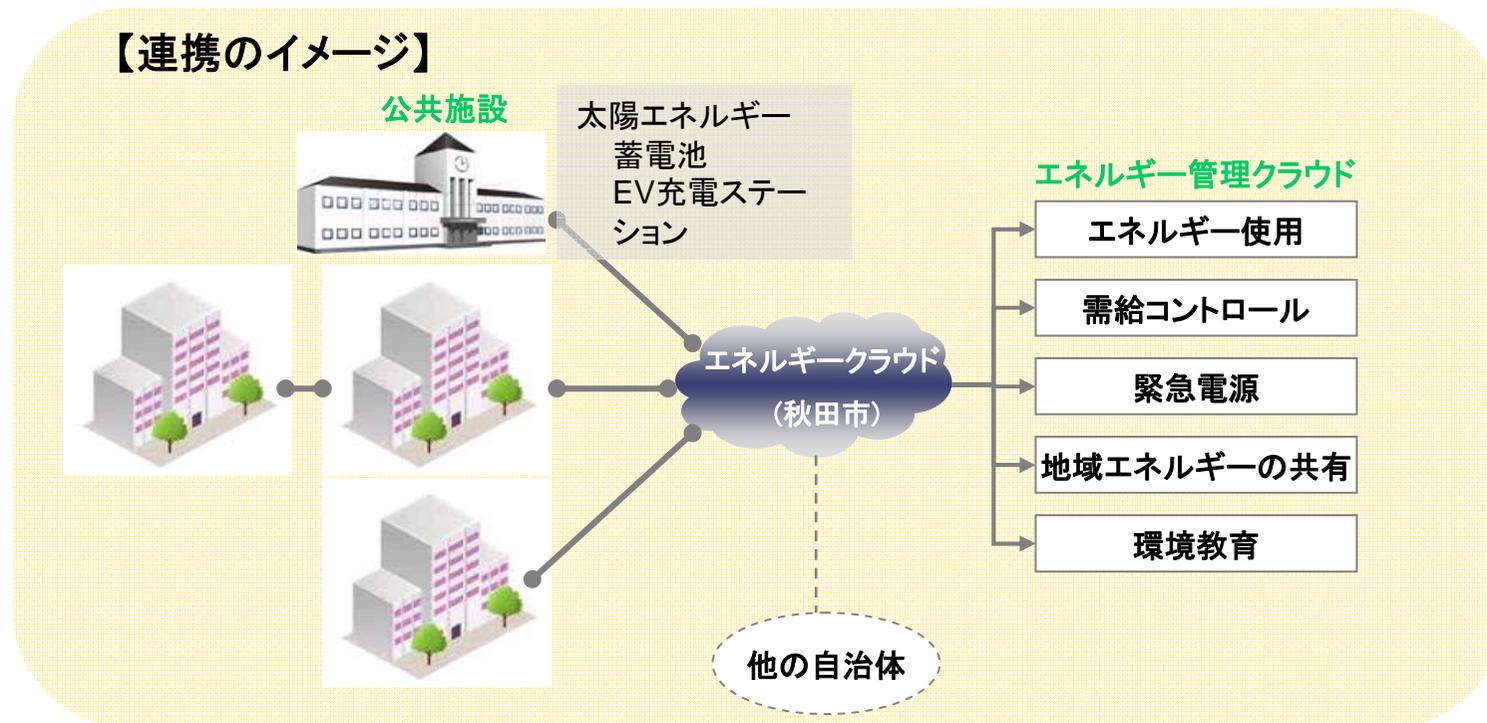
ウ 従来、市の各所管課が請求書を元に手入力していたが、上記により、データの正確性と集計の迅速性が向上するとともに、入力作業の大幅な省力化が図られる。

(3) 情報統合管理基盤の機能について

※実際に情報統合管理基盤にログインし、デモを実施

2 岩手県大槌町との連携について

- (1) 本市の基盤は、クラウド上に構築しているため、インターネットを通じた自治体間連携が容易である。また、災害時のバックアップなど、リスク管理の面でも優れている。
- (2) こうしたことから、基盤の活用を通じた被災地との連携について模索してきたところ、岩手県大槌町から、スマートタウンの実現のために、本市の基盤を共同利用したいとの申し入れがあった。
- (3) 共同利用で、大槌町のスマートタウンの実現が迅速かつ効率的に進むことから、復興に寄与しながら相互発展できる取組として、共同利用を承諾した。



3 来年度以降の方針について

(1) 基盤の運用等について

- ア 24年度は基盤運用開始の年として、運用状況を見ながら、課題と効果を検証する。
- イ 25年度以降は、センサリング対象施設を拡大していく予定。(27年度までに計20施設程度)

(2) 大槌町との連携について

- ア 基盤の共同利用について、大槌町と覚書を締結(4月)
- イ 今後の自治体間連携を進めるため、連携協議会準備会を立ち上げ